不知火っ子だより　第３号

平成 28 年 6 月 14 日　文責　校長 吉永博美

子どもたちが力を出し切った運動会

６月５日は、保護者の皆様のご協力のおかげで、子どもたちの心に残る、そして今年しかできない特別な運動会となりました。雨のため前日の準備ができず、保護者の皆様には当日早朝より大変お世話になりました。「がんばろう不知火！一致団結 心を一つに 今こそ進もう、勝利に向かって」のスローガンの下、不知火っ子の「元気」が、地域に発信できたと確信しています。また、子どもたちにとって貴重な成長の場となりました。子どもたちは運動会に向けて、「かけっこで１等をとりたい」「組体操を成功させたい」「応援合戦で勝ちたい」など、それぞれの目標に向けて努力しました。その中で子どもたちは大きく成長しました。特に６年生は、あらゆる場面でリーダーとなり、自分が動くことで下級生を引っ張っていきました。小学校の最終学年としてふさわしい成長を感じました。



この経験は必ず他の場面でも生かされると思います。さらなる成長を期待しています。

６月は「心の絆を深める月間」児童の心の居場所となる学校・学級づくりを推進します！

この期間には、校長講話、児童集会、心のアンケートの実施や個別面談などの取組を行います。

・・・・・・・・・・・校長講話の内容の一部をご紹介します。「心と心のつながり・・・絆」・・・・・・・・

「まあくんとゆうくん」という２人の男の子の話をします。先生が以前に勤めていた学校でのお話です。まあくんという男の子が入学してきました。まあくんは、生まれてまもなく大きな手術をしました。手術は成功し、まあくんの命は助かりましたが、自分で手や足を動かしたり、しゃべったりすることが難しくなりました。でも、まあくんの笑顔は、周りの人の心を温かくする不思議な力がありました。２年生になってから、まあくんは、つかまり立ちができるようになりました。そして誰かに支えてもらうと、一歩、二歩と少し動けるようになりました。クラスの友達が、肩を貸したり腕を支えたりしてくれました。まあくんは、特に、ゆうくんという男の子の背中がお気に入りになりました。ゆうくんは、まあくんと同じクラスの男の子です。誰かに意地悪をしたり、自分勝手なことはしないやさしい子どもでした。休み時間になるとまあくんはゆうくんを探します。見つけるとニコニコ笑顔でゆうくんの背中から肩につかまり２人のお散歩が始まります。

ゆうくんはまあくんの動きに合わせてゆっくり歩きます。何かを話しているわけではないのですが２人ともニコニコしています。二人の姿を見ていると、なんだか幸せな気分になりました。ところが、２年生がもうすぐ終わりになるころ、ゆうくんは、転校することになったのです。お別れにゆうくんは、クラスのみんなにプレゼントをあげようと思いました。ゆうくんのお母さんは、「お姉ちゃんが鉛筆にしたから、同じにしたら。」と言いました。でもゆうくんは「まあくんは、鉛筆を使わないからハンカチがいい。」と言ってクラスのみんなにハンカチをプレゼントして転校しました。

この２人の姿を見るたびに、２人は心と心でつながっているのだなあと思いました。

心と心がつながりを絆といいます。絆がたくさんできて深まると、居心地のいいクラスになります。みなさんはどんなクラスにしたいですか？

そのために自分は何ができますか？

何をしますか？



待望のプレハブ校舎への引越し！　第１期仮設校舎建築工事完了

６月１４日（火）、地震直後から、２クラス同じ教室で授業を受けていた４年生と６年生が、新築のプレハブ校舎へ引っ越しました。プレハブと言っても、とても立派な建物です。空調つきですのでこれからの季節も快適に学習できます。トイレも洋式水洗となっています。

続いて、給食センター裏では２期工事が始まりました。７月中には完成予定です。教育環境も徐々に整いつつあります。保護者の皆様や関係の皆様に感謝申し上げます

※プレハブ校舎の様子については、不知火小学校ホームページに掲載しますのでご覧ください。